

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970500623		
法人名	医療法人 芙蓉会		
事業所名	グループホーム芙蓉		
所在地	山梨県笛吹市一宮町竹原田1359-1		
自己評価作成日	平成22年2月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成22年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

軽度の認知症高齢者が、家庭的で、豊かでその人らしい生活を送り、同時に認知症の進行を予防するよう支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、窓から金川の森の桜や桃畑が見え、反対側にはスーパー等のお店があるという恵まれた環境の中にあり、2つのユニットの間には、いつでも出入り出来る広い中庭がある。その庭には犬がいて、利用者から可愛がられている。明るく広々とした建物は、拘束感なく落ち着いた生活の場となっている。勤め人の様な身なりの男性利用者や主婦的な服装の利用者もいて、それぞれの個性が保たれ生活している。話したり話しかけられたり会話が多い為か、利用者の表情が生き生きとしている。また、職員も一人ひとりの思いを把握し、その利用者へ寄り添った接し方をしている。事業所に掲示されている独自の理念にそった支援がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(グループホーム芙蓉)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を事務所及び各ユニットの玄関に掲示し、共有している。職員会議などで、口頭で理念について確認することはあるが、理念に添った取り組みがサービスの場面に活かされているとは言い難い。	地域との関わりが持て、その人らしく生活出来るという独自の理念を掲示し、職員間で共有し実践している。毎月の職員会議なども、理念に基づいて話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のマラソン大会の応援に行ったり、行事の際には、老人クラブや保育園の園児が定期的に協力してくださっている。	すぐ隣に大きな公園があり、散歩時に地域の方との触れあう機会が多い。民家は少ないが隣の家からの情報で「ドンドン焼き」などにも参加している。	区費は払っているとの事なので、今後は、回覧板を回してもらおう等の自治会への関わりを持てる様な働きかけを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生・専門学校生の実習を受け入れ、認知症のお年寄りの接し方や病気に対する理解を深めていただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催は、3~4か月に1回に留まっている。会議の方法や議題についての検討が今後の課題。	行事や近況を報告し、意見や要望などを聞いている。カラオケの購入やドライブ・外食の要望などがあり、サービスにつなげているが、もう少し活発な意見が出たらと職員は考えている。	いつも同じメンバーでなく、参加者を交代するとか、行事も報告のみでなく、予定を検討してもらおうという様な工夫をして、意見交換が活発になり、開催回数も増える事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の代表の方に、運営推進会議に出席していただき、情報提供や指導をいただいている。市で開催している連絡協議会にも参加に努めている。	市の高齢福祉課で開催する年4~5回の会議には参加し、分科会等を通じて、市の職員に困った事などを相談出来る関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束解消マニュアルを職員全員に配布。拘束となる行為、拘束廃止の目的については、理解を深めるよう努めている。玄関は自動施錠であり、自由に出入りはできないが、外へ出たい入居者がいる時は、一緒に出るなど対応している。	身体拘束は原則としてしない方針である。広い中庭は芝生やベンチがあり、自由に出入れる為、いつでも外気に触れられるので閉塞感は少ない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを職員全員に配布。虐待となる行為や虐待の兆候を示すサインなどの把握に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の連絡協議会などに参加し学んでいる。該当する入居者がいないため、理解を深めるまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書を基に、十分な説明を行っている。不安な点は随時、話し合う機会を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、多くの意見や要望を出しやすいように配慮している。意見があれば、申し送りノートにて職員に知らせている。	意見箱は、家庭的な雰囲気には合わないという考えから設置していないが、日頃からの関わりの中で、自由に意見を頂ける様になっている。確かに、利用者からの話しかけは多かった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議にて、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。	会議時は、もちろんのこと、いつでも意見が言いやすい職場の雰囲気がある。「鍋を新しくしてほしい」「職員が使いやすいトイレ」「物置の設置」などの意見を取り上げ改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務希望を極力聞き入れ、無理なく勤務できるような配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の案内を掲示、回覧し、参加を促している。必要な研修に関しては、勤務調整を行い、参加できるようにしている。研修で得てきたものを、更に内部研修として活かすよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会や研修会等で、情報交換を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅訪問を行ったり、お試し利用(入居前に一日もしくは一泊)を行うことで、少しずつ関係を深めていくことに努めている。前事業所と連絡を密にし、情報を得ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族から困ることや要望を十分に聞く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前情報とのギャップについては、すぐに修正している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者にとって職員は、家族であったり同僚であったり、認識がまちまちなので、個別に合った接し方をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者に安心して過ごしていただくため、可能な限り家族に協力を依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と連携し、行き着けだった場所へは、入居後も継続して連れて行っていただけるようにしている。近所の方や兄弟などで、ホームに来訪できる方には、来ていただけるよう声掛けをしている。	本人・家族の話から、温泉好きな人は温泉に、散歩が好きな人は、毎日出来るような配慮をする等の対応をしている。大正琴を弾く人もいる。また、近所の友達が気軽に訪ねてくる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に関しては、十分把握できていると思う。大きなトラブルを起こさないよう、仲介したり様子を見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退居された方や、他施設に移動された方の面会に行き、経過を見守っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に、センター方式に基づいた聞き取りを行い、希望・意向の把握に努めている。意思の疎通が困難な方に関しても、発した言葉や言動などを記録し見直しをしている。	「部屋の掃除は自分でしたい」と希望のある利用者には、遠くから見守るようにし、「発した言葉」については、職員がその都度記録しており、その中から日頃の思いを把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式に基づき、記録している。入居前の生活により近づけることができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子を観察記録に記している。その方の持っている力に応じて、掃除や洗濯など手伝っていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向を一番に考え、計画を作成している。モニタリングは、観察記録や職員会議での話を参考に行っている。	本人・家族の意向を考慮し、月1回のカンファレンスにて介護計画を作成している。変化のない時には、4～6か月毎にモニタリングを行い、現状にあった個別の介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察記録に日々の様子や気づいたことを記録している。申し送りや会議では、情報を共有し、計画に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の要望や家族の状況に応じて、通院や外出など、必要な支援を行えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員の紹介で、ボランティアを向かえ、レクレーションなどを行い、入居者が楽しめるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が、入居前からのかかりつけ医に、継続して受診している。遠方などの理由で主治医を変更する場合も、紹介状を作成してもらうなど、治療を継続できるようにしている。病院受診は、できるだけ家族の協力を得ているが、不可能な場合は個別に通院援助をしている。	入居前からのかかりつけ医が多いが、皮膚科等の専門医や骨折などの突発的な時には家族と相談して、総合病院を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回の訪問看護にて、相談しアドバイスをいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報提供を行っている。治療期間や退院のめどなど、家族と共に医療機関との話し合いに参加させていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に「重度化対応・終末期ケアに係わる指針」を説明し、同意書にサインをいただいている。入居者の状態に変化があった場合は、これから想定される状況についても話し合っている。	希望があれば、終末期まで対応したいと体制作りはしてある。今までに突然死はあったが看取りをした事はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度、同法人内で行われる救急訓練に参加しているが、いざと言うときに手際よく、落ち着いて対応できるかどうかは、不安がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、昼の設定や夜の設定で防災訓練を行っている。災害時、手順よく行動できるかどうかは不安がある。現在、スプリンクラー設置に向けて工事が開始されている。	非常時は、緊急通報システムとセコムに通報される仕組みになっている。避難場所は中庭となっていて、隣近所の協力を得る様に働きかけている。	中庭に隣接する公園の仕切りの金網は、非常時に開けられる様になると、より安全に避難出来る。今後も、公の機関側に働きかけて、扉が出来る事を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いについては、十分な配慮に努めている。個別に馴染みやすい言葉かけで対応しているが、長期関係での馴れ合いすぎってしまうことに関しては、注意しなければならない。	「傷つける言葉とは何か？」という内容の接遇マナーの研修を行い、利用者の人格を尊重した職員教育に心がけている。排泄の失敗時の対応などで、自分が嫌と思う事はしない様にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示ができる入居者に対しては、決める機会を作っているが、意思表示できない入居者に対しては、働きかけに関して努力不足である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	心身の変化で起床や食事など、決まった時間での行動が不可能な場合は、時間をずらすなどの配慮をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介助しやすいジャージやスウェットには極力せず、今まで着ていた好みの洋服をきている方が多い。ヘアカットだけでなく、カラーを楽しんでいる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時には、嗜好をお聞きして、苦手なものは交換するなどの配慮をしている。テーブルを拭いたり、下膳ができる方にはしていただいている。	入居時に嗜好は把握するが、その後も一緒に食事をしながら、好みや栄養状態など様子をみている。夏には、中庭で栽培したトマトやきゅうり等を食材として使っている。食事中も会話がはずんでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態や好みに合わせた形態で食事をお出ししている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ、見守り、介助が必要な方を把握し、義歯の管理が必要な方は、あずかるなどしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンの把握に努め、入居者に合わせた声かけや誘導を行っている。	18人中おむつ使用者はいない。5人の紙パンツ使用者については、個々の排泄時間を把握して対応している。誘導を拒否された時は時間をおくか、他の職員が対応するなどの工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症で管理が必要な入居者に対しては、排便チェックを行い、個々に応じた対応(下剤服用・摘便等)をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望で毎日入浴している方もいるが、ほとんどの入居者が、週3回、決まった時間帯に入浴している。体調や気分が入浴できないこともあるため、改善していきたい。	月～土曜日の午後に入浴している。1人はほぼ自立されているが、他の利用者は必要な部分についてのみ介助するようにしている。入浴拒否された時には、言葉がけの工夫をしている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドと寝具はレンタルしているが、入居時に希望をお聞きして、馴染みのベッドや寝具を持ってきていただくこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬情報は、すぐに見ることができるように、ファイルしてある。(個人ファイルと内服薬情報ファイル2箇所) 処方内容が変わった時は、申し送りノートに記載し、副作用などが予測される場合は付け加えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの制作や行事への参加を支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に散歩や買い物、外食などの支援をしている。全員行えているわけではなく、偏りがちである。	携帯電話を持ち、約束を守って毎日外出する利用者もいれば、出たくないという利用者もいる等と個々に合わせた対応をしている。2か月に1回外食に出かける他、少人数でこじんまりとした外出の機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度を管理している方はいるが、実際、買い物に行き、支払っている人は少ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望する方に対しては、支援している。手紙はしていない。届いた手紙に対して返事を書くくらいの支援はしたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓部分の光が、以前から眩しかったため、カーテンをつける配慮をした。カレンダーや季節の制作を飾り、四季を感じていただけるような工夫をしている。	ゆったりとした明るい建物の居間や廊下に行事の思い出の写真があり、季節にあった飾り物が工夫されてある。ソファに腰掛けておしゃべりがはずむ様な雰囲気がある。中庭には「シロ」という犬がいて、利用者の心を癒している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間を思い思いに使用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた家具や生活用品を持ち込んでもらっている。思い出の写真などを飾っている方もいったり、居心地のよい場所作りの工夫をしている。	各居室の入り口が並びでない為、自分の部屋が分かりやすい。居室内は自由に家具を配置していて、それぞれの個性が出ている。また、居室内の空間を好きに動かして、居心地良くなるように工夫している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には見やすいように名前を表示している。トイレの場所を間違えてしまう方に対しては、注意深く見守っている。		